

ピロリ菌について

ピロリ菌とは

ピロリ菌はヒトの胃の中に感染するらせん状の細菌です。以前は多くの日本人が感染していましたが、現在若者の感染率は低下しています。多くは幼少期に感染します。

ピロリ菌が関係していると考えられる疾患

- 胃炎
- 免疫性（特発性）血小板減少性紫斑病
- 胃潰瘍、十二指腸潰瘍
- 鉄欠乏性貧血
- 胃がん 除菌適応は早期胃がんに対する内視鏡治療後
- 胃MALTリンパ腫
- 過形成性ポリープ
- 機能性ディスペプシア
- 胃食道逆流症（前庭部優位胃炎）

出典：日本ヘリコバクター学会ガイドライン2016

ピロリ菌の検査

抗ピロリ菌抗体検査 血液や尿のピロリ菌に対する抗体を調べる方法	培養法 ピロリ菌を培養して調べる方法
便中ピロリ菌抗原検査 糞便中のピロリ菌抗原の有無を調べる方法	鏡検法 ピロリ菌を顕微鏡で調べる方法
尿素呼気試験 ピロリ菌がもつウレアーゼを利用して呼気（吐き出した息）を採取して調べる方法	迅速ウレアーゼ試験 ピロリ菌がもつウレアーゼに反応して色が変化する試薬を用いて調べる方法

ピロリ菌の治療

① カリウム競合胃酸分泌阻害薬 またはプロトンポンプ阻害薬	①～③を1日2回1週間内服
② 抗生物質 アモキシシリン	
③ 抗生物質 一次：クラリスロマイシン 二次：メトロニダゾール	

一次除菌

成功率 70～95%

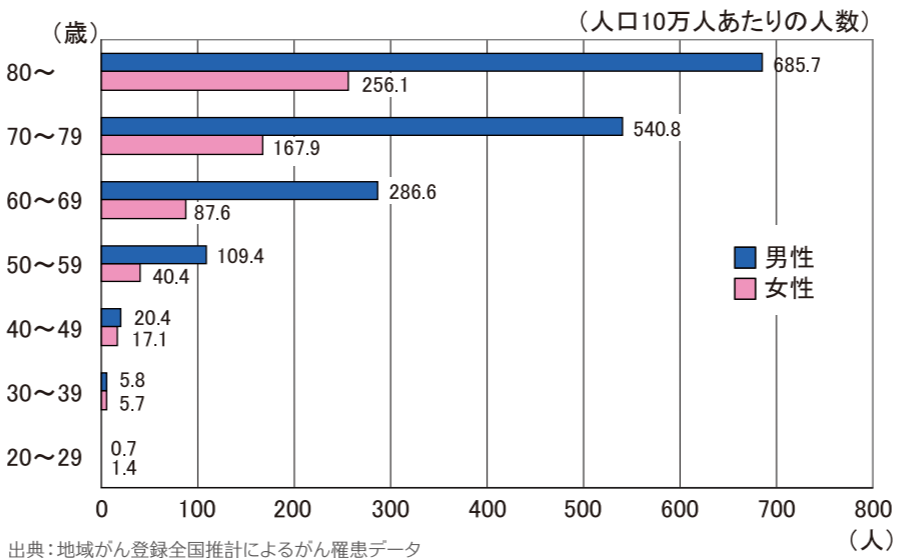
二次除菌

成功率 約90%

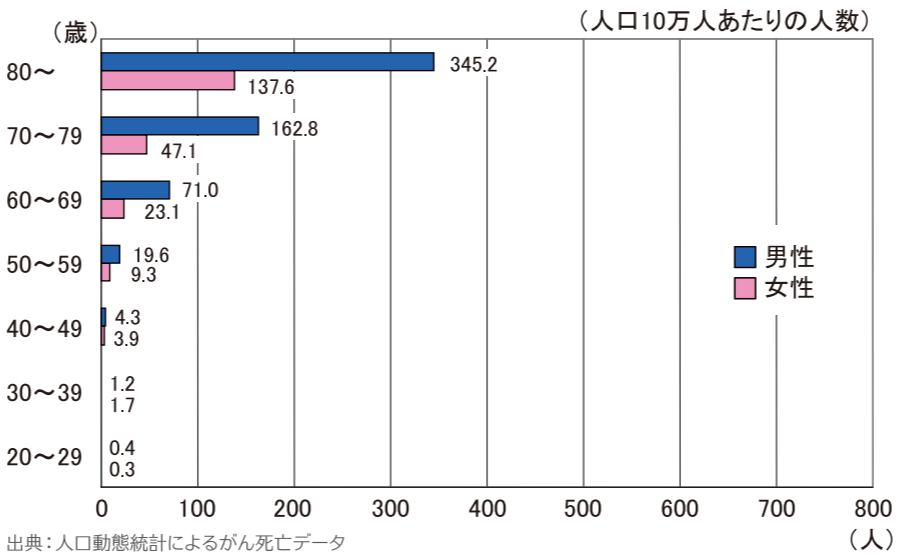
一次除菌が不成功の場合、二次除菌を行います

胃がんの頻度

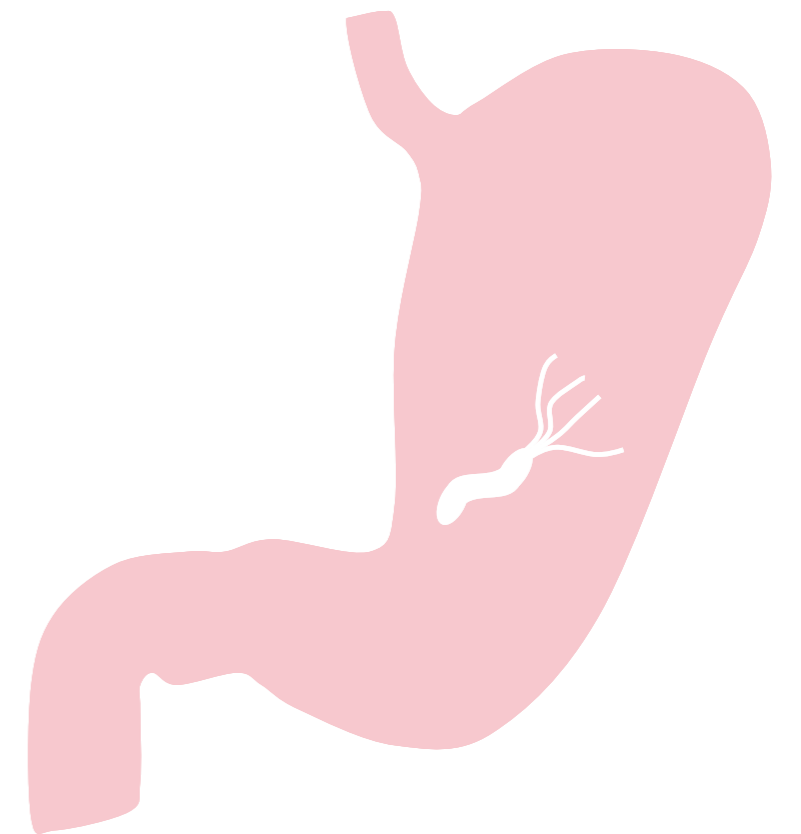
胃がんの罹患率（2012年）



胃がんの死亡率（2015年）



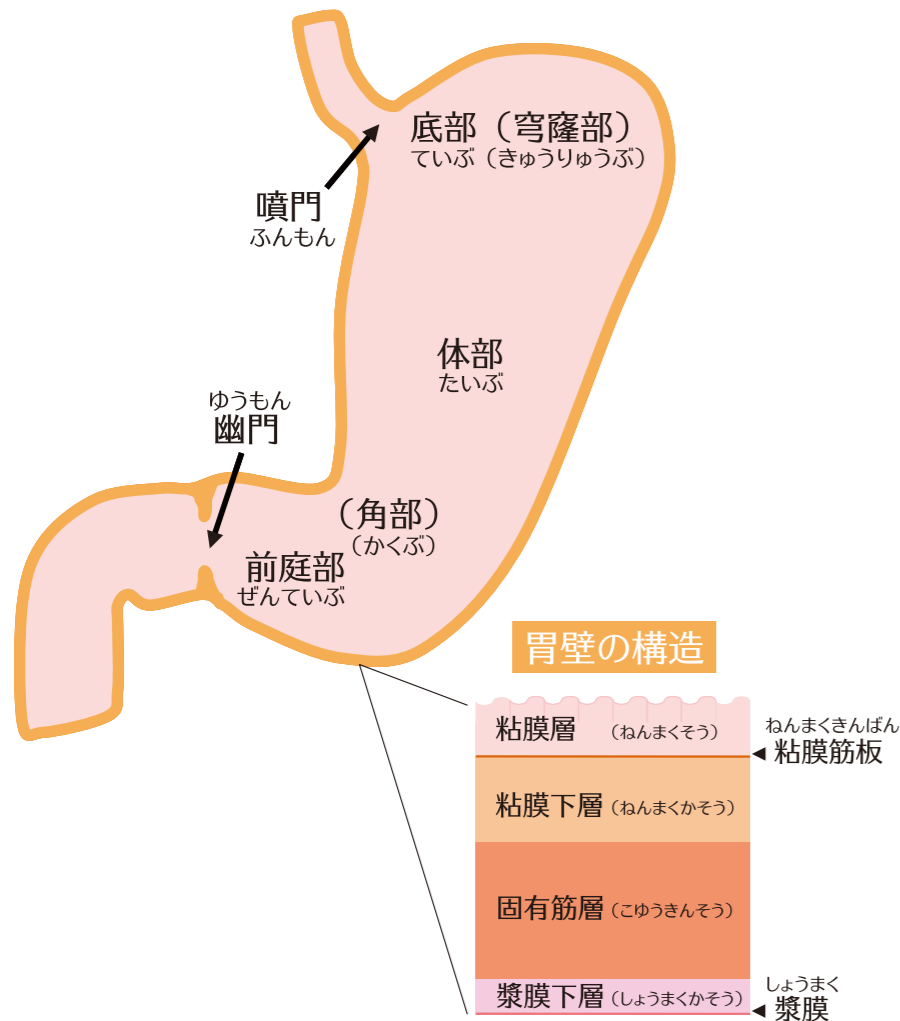
受けていますか？
胃がん検診



がん予防キャンペーン大阪事務局
 〒536-8588 大阪市城東区森之宮1-6-107
 大阪がん循環器病予防センター内
 TEL: 06-6969-0676

監修：大阪がん循環器病予防センター 内視鏡検診部長 石田 哲士

胃の部位の名称



胃がんの症状

早期の胃がんでは、自覚症状がないことがほとんどで、かなり進行しても無症状の場合があります。

代表的な症状は、胃の痛み、不快感、違和感、吐き気、食欲不振などですが、これらは胃がん以外の胃炎や胃潰瘍でも起こります。出血を伴っている場合は、貧血や黒色便を認めることがあります。症状がない段階で胃がんを発見するためには、検診が有効です。症状がある場合は、検診ではなく、医療機関を受診し、精査を受けてください。

胃がんの原因

胃がんのリスク因子として、ヘリコバクター・ピロリ菌の持続感染、喫煙、高塩分食などが知られています。ピロリ菌に感染した人のすべてが胃がんになるわけではありません。ピロリ菌に一度も感染していない人でも、頻度は少ないものの胃がんになることがあります。近年除菌療法が胃がんにかかるリスクを低くするという研究結果が集積されつつあります。

胃がん検診の内容

胃X線検査

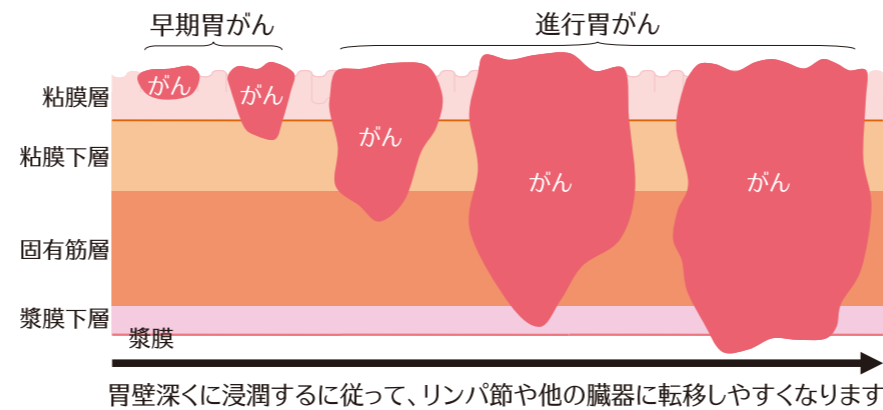
バリウム（造影剤）と発泡剤（胃をふくらませる薬）をのみ、胃の中の粘膜をX線で撮影する検査です。

胃内視鏡検査

胃の中を内視鏡で直接観察する検査です。胃X線検査でがんなどが疑われた場合でも、確定診断をつけるための精密検査として行われます。がんが疑われる部位があった場合、組織の一部を採取して顕微鏡で調べる場合があります。

胃がんの深さ（深達度）

胃がんは胃の一番内側の粘膜層から発生します。がんの深さが粘膜層および粘膜下層までのものを「早期胃がん」、粘膜下層を越えて固有筋層より深くに及ぶものを「進行胃がん」といいます。



胃がんの拡がり（病期：ステージ）と予後

がんの深さや転移（リンパ節や他の臓器）の程度により、大きく4つのステージⅠ～Ⅳに分類します。早期に発見された方（ステージⅠ）では予後は良好ですが、ステージが進むにつれて予後は悪化します。

ステージ別予後

胃がん検診などで早期に発見されると、治療する可能性も高くなります

ステージ	症例数(件)	5年相対生存率(%)
Ⅰ	11,507	97.3
Ⅱ	1,515	65.7
Ⅲ	1,892	47.2
Ⅳ	3,255	7.3
全症例	18,514	73.1

出典：全国がん（成人病）センター協議会の生存率共同調査2016年2月集計

胃がんの治療

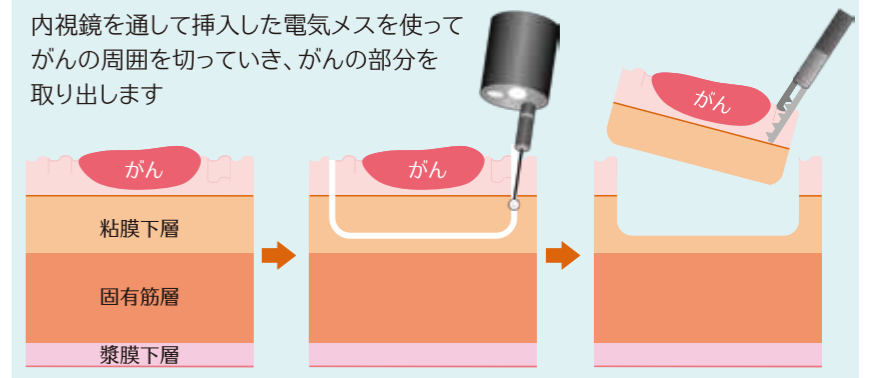
全身状態や胃がんの拡がり（病期：ステージ）をみて適切な治療法が選択されます。

内視鏡治療

内視鏡を使って胃の内側からがんを切除する方法で、内視鏡的粘膜切除術EMRと内視鏡的粘膜下層剥離術ESDがあり、大きさや部位により選択されます。ESDが主流です。

内視鏡的粘膜下層剥離術ESD

内視鏡を通して挿入した電気メスを使ってがんの周囲を切っていく、がんの部分を取り出します



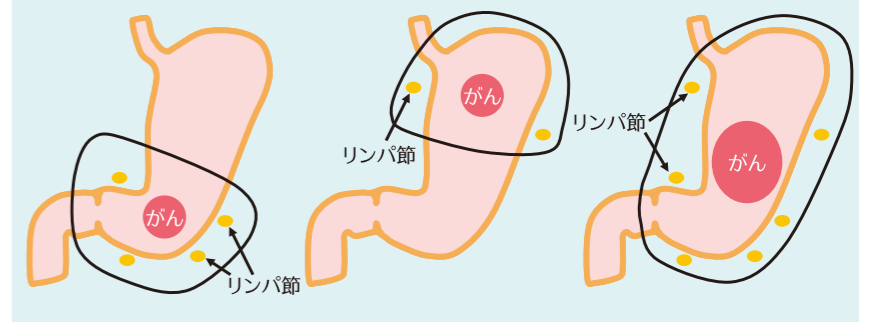
外科的治療

開腹や腹腔鏡により、がんを切除する方法です。がんのある部位と拡がり具合から切除範囲が決定されます。転移が疑われる所属リンパ節も、一緒に切除することが一般的です。

幽門側胃切除

噴門側胃切除

胃全摘



薬物療法（化学療法）

外科的治療と組み合わせて行われる場合と、手術による治療が難しい状況で、がんの進行を抑え、延命および症状を軽減することを目的として行われる場合があります。